

究極の選択

寺西小学校 六年 菅 峻太郎

「僕はお米が大好きです！」と言いたいところだが、大きな声では言えない気がする。なぜなら同じくらいパンも大好きだからだ。焼きたてのパンは、ぱりぱりたまらない。よく行くパン屋さんで「こちらただ今焼き立てですよ！」というお姉さんの声が聞こえてくると、ついそのパンに目が行ってしまふ。焼き立て

のパンなんて何個でも食べられそうだ。

でも、やはり、炊き立ての白いご飯も

力的だ。茶碗によそうと、つやつやと輝い

て、湯気がホワホワとお米を包む。食べると

甘くて良い香りだ。何とも幸せな気持ちになる。何杯でもおかわりできそうだ。

どちらか良い勝負。どちらが一番なんて選べるわけないじゃないか。

最近、お母さんが新しいホームベーカリー機を買った。今まで使っていた10年前の古い

物とは違い、機能も増えてとてもおいしい焼
き立てのパンが家でも作れるらしい。これと
ても楽しみた。そしてある朝パンの焼ける匂
いで目が覚めた。

『今日はご飯パンよ。よく焼けてる』
とお母さんが言った。僕の目の前に出て来た
のは食パン一片を四等分した大きめのゴロッ
としたパンだった。今朝焼けたばかりなので
持つとヤケドしそうなくらい熱い。ホワッ
ッとして湯気に包まれて、香ばしい匂い。

『じゅうじゅう食べてみてよ』

と自信あり気にお母さんが僕に言う。一口含
めてみると味はフランスパンのように香ばし
く、中はいつもよりモチモチしている。そし
てお米の味がする。すごくおいしい。僕は感
激した。お母さんによると小麦粉とご飯を半
分ずつくらいの分量で作ったそうだ。その日
からこの『ご飯パン』は我が家の朝の定番メ
ニューになった。お米の消費量が増えたそう
だ。

僕の悩んでいた事はあっさり解決した。

『始めからお米とパンどちらが一番好きかなんてこと、片方だけを選んで選ばなくても良かったんだ。』
と家族に話している時、お姉ちゃんが僕に質問してきた。

『じゃあ、最後の晩さんは何食べた？』
そう聞かれて僕の頭にはすぐにある二文字が浮かんできた。

『寿司』

気がついたら僕は答えていた。家族全員から笑われた。よく考える時『お米とパンどちらが片方な人か選べない』と言った直後に、僕はお米を選んでいった。つられて僕も大笑いした。じつから僕はお米派らしい。